

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

学内選考

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
人文科学研究科	教育学専攻	小論文（教職研究）	不可

問題 次の文章を読み、筆者の主張をふまえて、自分の専攻とする教科・領域における「学び」の意味についての考えを、1,000字から1,200字で述べなさい。

二十一世紀は「先の見えない時代」と言われています。子どもたちはすでにそのことに気がついているはずです。環境破壊やコロナ、貧困問題、テロなど、世界は次々と困難に見舞われていますが、学校が楽しい、面白いと感じられない子どもの数もそれと比例して増えているようです。いじめ、不登校はそうした子どもの落胆、ストレスの表現なのでしょう。

目まぐるしく社会が変わっていく中で、教育のシステムがこれまでと変わらなければ、子どもたちにとって学校は、魅力のない場所、意味のない場所になっていくでしょう。そして、生きることすら意味のないことになってしまうかもしれません。

教育を根本的に捉え直し、本当に子どもたちにとって楽しく必要なものに変えるためには、何のために人は学ぶのか、その理由や目的から考え直す必要があります。

子どもたちが「先の見えない」中で生きていく上で大事な力は、正解を効率よく覚えて短時間で再現できる力ではありません。これまで正解だとされていたことでさえ、クリティカルに「本当にそうなのか？」と問い直し、自分なりに考え、自分なりの解を導き出す力が必要です。

そこにたどり着くための手段やルートは一つではありません。その最大の理由は、本当は世界に「正解」などないからです。正解と思っていたことが時代が変われば間違いだとわかることはしょっちゅうです。正解を求めるのが学ぶ目的ではありません。「正解」などない。ではなぜ学ぶのか。それを問い続けることこそが、学ぶ目的と言えます。だからこそ、死ぬまで私たちは学び続けなければならないのです。

「学び」に正解はないということを「学び」を問い直す前提としてまず理解していただきたいです。

汐見稔幸『教えから学びへ』より

令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

研究科名	人文科学研究科 教育学専攻
試験期別	I期
試験区分	学内選考
試験科目名	小論文（教職研究）

■ 出題の意図

教職研究を専攻して、教育について研究する立場として、「教える」と「学ぶ」との基本的な意味について考えてほしいので、問題文を用意した。

この文章で述べられているこれからの教育の在り方、「学び」に正解はないことを理解すること、そしてそれでは「学び」の目的は何なのかを考えてもらいたい。

しかし、空理空論で終始してしまつては意味がない。そこで、受験者各々が目指す専攻科目・領域における研究テーマと結び付けて上記のことを考え、論じてもらいたい。

論じることで、自らの研究のテーマについて改めて見つめ直し、研究計画をより確かなものにしてもらえるように願っている。

1,000字から1,200字で論じるという条件を付けたのは、限られた時間の中でいかに自分の考えを論理的に述べるができるかという、入学後の論文作成能力の基礎的力を見るねらいもある。

■ 採点のポイント

形式的な面では、論理的な文章として相応しい段落構成となっているかを見たい。いわゆる序論・本論・結論という大きな3段構成をもちながら、本論の部分では自分の考えを支えるための論拠と具体例をいくつかの段落に分けて述べられているかを見ていく。当然、誤字脱字や言葉の使い方の不適切な部分、語句の係り受けの不自然なところなどは表現上の問題として減点の対象となる。

内容的な面では、課題文の趣旨を理解できているかどうかということが一つ目のポイント。それに対する自分の考えが明確に示されているかということが二つ目のポイント。その考えを自分の専攻する教科・領域において具体的に論じられているかということが三つ目のポイントとなる。